

アウシュビッツ博物館案内

著 中谷剛

三浦慧太

1. アウシュヴィッツ博物館とは

a) 公開されたのは1947年

しかし終戦の混乱で年間来場者は20万人

ア) 当時の来場者は社会主義諸国からが中心

b) その後70年代には70万人まで増加

しかし80年初頭に戒厳令が発令

訪問者は大きく減少

だが2001年からの10年間で140万人に急増

c) アウシュヴィッツ博物館は57%が外国人で構成
理由: 1980年に社会体制の転換が実施
しかし1967年までユダヤ人は300人余りの来場
第三次中東戦争の際ユダヤ民ブース閉鎖の危機



収容所の記憶のやり方へのヤーントン宣言発表

ユダヤ民のグループはイスラエル人を誤解
それだけ傷が巨大

• 2. ユダヤ民とロマ・シンティ

a) ww2中のポーランド在住ユダヤ人は88%犠牲
また戦後から60年にかけて財産の没収が横行
70年には二万人まで減少

b) ロマ・シンティとは？

= 民族単位で様々な地域を放浪
彼らも虐殺の対象

3. アウシュヴィッツ＝ビルケナウ博物館の内容

a) ARBEIT MACHT FREIゲート

ユダヤ人の連行の際に一番最初に通る門

門の意味:「労働は自由への道」

しかし実際は毎日11時間死ぬまで労働

b)4号館第一展示室

大きなヨーロッパの地図が展示

また地図の向かい側に大きな写真パネルが存在

内容:収容所のユダヤ民

その写真には死体焼却の壺も発見

=SSはそれらを証拠隠滅

SSとは?・・ナチスの武装親衛隊

c)4号館第三展示室

a)強制収容所の写真や人々の写真

当時は貨車にユダヤ人が150人搭乗

また食料もゼロ

そこにはそれらを抹殺するガス室と焼却炉も存在

ア)多い時には一日に7000人虐殺

d)4号館第四展示室

ア)ガス室と焼却炉の模型

ビルケナウにはこれらが4か所存在
しかしSSが証拠隠滅のために破壊

イ)ガス室と焼却炉の流れ

=まず「今からシャワーを浴びろ」と通達

次に服を着脱

その後地下へ連行、その後SS衛生兵がチクロンB
を投下

その後、金歯、宝石、長い髪等を剥奪

最後に死体は一階の焼却炉で焼却

ア) 末期は殺害人数過多により野原で焼却

e) 4号館第五展示室

焼却炉に投入の前の髪の毛が展示

F)5号館

ナチスの没収品であり、犠牲者の遺留品を展示
例)義肢、義足

G)7号館

収容所内の様子が復元
初期は藁が床に存在

やがて洗面台やトイレが装着

H) 10号館

収容所内の双生児や小人症の研究の展示
また不妊治療の研究や断種実験も存在

I) 11号館

秘密警察ゲシュタポが抵抗組織を銃殺の場所
ここは今までと違い非常に当時に近い状態で保存

• 結論

アウシュヴィッツ強制収容所では様々な非人道的な実験やユダヤ人に対する扱いを受領